

ご挨拶

文部科学省高等教育局医学教育課長 袖山禎之

先生方おはようございます。歯学教育認証評価制度構築に向けてのシンポジウムの開催にあたりまして、一言御挨拶を申し上げたいと存じます。

まずもって先生方におかれましては、我が国の歯学教育の充実、また歯科医療の発展のために日々御尽力をたまわっておりますことに対しまして、この場をお借りいたしまして御礼を申し述べたいと思います。

先程お話がございましたように、東京では20年に一度、20年振りの大雪という悪天候でございますけれども、そのような天候にもかかわらず、このように大勢の先生方がお集まりになりまして、歯学教育の改善充実にむけた討論が行われるという事に対しまして、改めて敬意を表させていただきたいと思っております。

本フォーラムのためにGDCからPatrick Kavanagh先生、そして、CODAからSherin Tookes先生にご出席を賜りまして、このことに関しましても感謝を申し上げたいと存じます。

昨今少子高齢化が進みまして、歯科医師の過剰に伴うキャリアの魅力の低下といったようなことが指摘されているところでございまして、そのような中でこれまでのような優れた質・能力をそなえた者を選抜する入学試験選抜が困難な大学も一部でてきております。そういったなかにおいても、卒前・卒後を通じました一貫した教育によりまして、質の高い優れた歯科医師を養成していくこと、また、在宅歯科医療・高齢者歯科医療などあらたな医療介護ニーズに対応した歯科医師を養成するという事が求められているところでございます。このような中で、わが国全体といたしましては大学の認証評価制度がスタートし、7年サイクル、2順目に入ろうとしている訳でございますけれども、歯学教育の分野別評価につきましては平成21年4月に取りまとめられました報告の中で、第三者評価の仕組導入について検討するという事がうたわれまして、これを受けまして、平成24年度から日本において国際標準の教育を実施していることをあきらかにするとともに、国際標準を超える優れた歯科医師を養成するため、日本における国際標準の歯学教育認証制度の基盤を構築するという事で、本事業を実施をいたしているところでございまして、東京医科歯科大学他4大学の連携事業として実施をしていただいているところでございます。

諸外国におきましては英国をはじめ、欧州・米国、また、アジア諸国においても香港・マレーシアなど多くの国において、歯学教育の分野別評価がすでに実施されていると伺っているところでございます。また、日本国内では学部分野別評価といたしましては、すでに医療系でも薬学部が平成25年度より本格実施を開始しておりますし、医学分野におきましては、この歯学分野と同様に、現在事業を実施している中で、トライアル評価を実施しているところでございます。歯学分野におきましても歯学教育のさらなる質の向上のために各大学におかれましても本事業への積極的な御理解御協力を改めてお願いを申し上げます。

最後になりますけれども、文部科学省といたしましては、今後も本事業に取り組まれる各大学の取り

組みについて、成果が得られますように引き続き支援をしまいたいと考えています。

本日のシンポジウムが実り多いものとなりますように期待すると共に、今後とも本事業に関わります皆様の一層の御尽力御協力を改めてお願いを申し上げまして御挨拶とさせていただきます。

本日はよろしくお願いたします。